



地震や出水等の災害時には、被災した河川管理施設の速やかな特定や氾濫状況の把握が重要であることから、防災ヘリコプター等を用いて上空から河川の被災状況を早期に把握することが求められます。

しかしながら、上空から見た河川は、似たような地形となっていることが多く、被災の位置を迅速に特定することが困難な場合があります。

そこで、河川の堤防上に距離標等の対空標示(「ヘリサイン」とも言います)を施工することによって、地震や出水等の災害時に、カメラで河川を上空から撮影し、被災した位置を速やかに特定することが出来るようになります。

日野川河川事務所における「ヘリサイン」の施工例



距離標(右岸2K)



河川名(日野川)



橋梁名(米子大橋)